

一般質問通告書

2024年 2月22日

高島市議会議長 廣本 昌久 様

高島市議会議員 11番 福井 節子

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

- 初問は
- ①. 全項目一括質問一括答弁
 - 2. 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 1) 発言事項	能登半島地震から学ぶ。原発は一刻も早く廃炉へ
要旨 (項目だけでなく、質問の趣旨が理解できるように記入してください。)	能登半島地震で亡くなられた方々に哀悼の意を表します。また、被災された皆さんには、心からお見舞いと一日も早い復興をお祈り致します。 また、救援・復興に、不眠不休で当たっておられる全ての皆さんに、敬意を表します。高島市からも、消防・病院を始め、水道や福祉分野などで派遣された皆さんにも、心から敬意を表するものです。 市民生活の中で、「災害から命守れる防災」をどうするか、厳しく問われています。日々報道される救援・復旧作業の現場で、志賀原発被災と避難経路の寸断、避難計画の破綻が明確になりました。福井県の原発群から50キロ圏内に位置する、高島の現状と対策について問います。 1、活断層が網の目のように這う日本海で、福井から新潟まで、まさに能登半島での大震災へと続きます。志賀原発の被災実態が明らかになる中、避難経路16の道路が寸断、今も原発は孤立状態です。ここから何を教訓にするか、私たちはしっかり学ぶ

必要があります。

- ① 原発銀座と揶揄される福井県に、隣接する滋賀県高島市。福島原発事故、そして今回の能登半島地震は大きな教訓です。志賀原発は「停止していたから、危うく福島のような大事故を免れた」とも言われています。原発は安全性が確立されていないことは明らかです。それでも岸田政権は再稼働を目指し、新設へも突き進もうとしています。高島市民の命と健康を守り、自然豊かな大地と琵琶湖を守る為には、廃炉しかないと考えますが、見解を伺います。
- ② 同時に、廃炉を決めても20年30年と廃炉作業期間が必要です。そのために、万が一の放射能漏れ、プルームが高島の方向へ飛んで来た場合、いつでもヨウ素剤を服用できるように、あらゆる公共施設、学校・こども園、高齢者・障がい者施設等に備蓄、更に、希望する各家庭へ配布すべきと考えますが、見解を伺います。

2、2月には、6日に高浜1号機の蒸気漏れが、8日には敦賀原発1号機のタービン建屋火災が発生しました。原発は、小さな事故でも取り返しの付かない事態を招きます。東日本大震災での原発事故では、放射能プルームが風に乗って拡散。今回の能登半島大震災のように、震度7を越え家屋の半数にも及ぶ倒壊や半壊を引き起こす深刻な事態と原発事故が発生した場合、屋内退避も出来ず能登同様に逃げ場がなくなるのが高島です。琵琶湖西岸断層帯は震度7を越えると予測されており、琵琶湖に阻まれ道路も寸断されると逃げ場がなくなると誰もが予測します。原発稼働の賛否に関わらず、原発防災・避難計画の抜本的見直しは、誰もが向き合わなければならない現実的課題となっています。高島市民の置かれている状況は、深刻な事態と受け止め、原発防災にあたっているか、伺います。